（別紙4）　　平成　25　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3270400595		
法人名	社会福祉法人出雲南福祉会		
事業所名	グループホーム寿生の丘（たけ棟）		
所在地	島根県出雲市大津町3622－15		
自己評価作成日	平成25年11月30日	評価結果市町村受理日	平成26年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/32/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　ワイエム
所在地	島根県出雲市今市町650
訪問調査日	平成26年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所の開所時より認知症ケアの基本的理念「パーソンセンタードケア」であるご利用者を真中に置いたケアと寄り添いを心がけてきました。その人らしい、また笑顔のある暮らしが維持出来る様支援しています。　幅広く地域との関わりを持つ様心がけ、「地域の中の寿生の丘」として向上を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

開所10年を経ているが、ホームの理念である「利用者個人の尊厳と人権に配慮した良質なサービスの提供と、利用者の残存機能を活かし、自立へ向けた生活援助に最善を尽くします」を施設長始め、職員が毎朝唱和するなどして、初心を忘れまいと実践に心がけている。明るく清潔なホールや、個性的な個室など、利用者さんは好きな場所でくつろいだり、簡単な作業や趣味を行うなど、いつも職員さんがそばにいることで、安心して過ごすことが出来る。認知症の進行した方でも、個別に関わりながら、他の利用者さんとの関係を調整しており、一人一人に目が行き届いている。法人母体も大きいことから、さまざまな協力体制が築かれており、家族からの信頼も大きい。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念と運営方針を立てている。又、ケア目標も持ち、毎月職員会やユニット会を開き理念の実践に取り組んでいる。職員自らの理念とすべく、朝礼時理念を唱和している。	「利用者さんが優先」という、つい作業をしてしまいがちな姿勢を常に戒めながらいることで、利用者さんと職員は共に生活している雰囲気を作り出している。利用者さんの表情はおだやかで活き活きしている。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治協会に入っている。 公民間活動にも参加したり地域のボランティアとも交流を持っている。敬老会には地域の高齢者や保育園児を招待し共に楽しむ時を過ごしている。	例えば、生け花や習字などホーム外の地元の趣味のサークルに、利用者さんが参加して、作品を部屋に飾っている。地域には、ボランティア活動が盛んであることから、ホームに訪れるボランティアさんも多い。法人内の他施設との交流も、生活を豊かにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事の際、地域向けに老人擬似体験などコーナーを設けるなどしている。中学生の職場体験や実習生の受け入れ等で交流をしている。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現在の生活状況を報告し意見交換を行ったり情報を得る事によってサービスの向上に努めている。	会議は、2ヶ月毎に開かれ、駅前交番所長も招かれて、防犯、防災、交通など、情報提供や提案もある。家族、地域住民、隣接のデイサービス職員など全員から意見が活発に出ており、協力、支援が行われている。	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通し情報交換をし、協力を得ながら関係を築いている。又、常に市と連携をとり、情報把握に努めている。	市の担当職員とは顔の見える関係を築いており、利用者さんの介護認定情報も適宜得ながら、適正なアセスメントに基づいて的確なニーズを満たすようなケアに勤めている。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を開き、全スタッフが理解しており自由に出入りできるよう、施設全戸開放している。やむをえず必要の際、家族に十分な説明を行い同意書をもらうようにしている。	かつて、窓から外へ出られた利用者さんがおられた。しかし、夜以外は、施錠はせず、職員が利用者さんの動きを把握し、見守ることで、自由を奪わないように取り組んでいる。外部からの訪問客も多く、開かれたホームである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	認知症ケアの原則をステーション内に貼ったり朝礼や申し送りに各自再認識を行っている。又、定期的に勉強会を開いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族会の場や職員研修の場を設け勉強し周知を図っている。又、家族からの相談にも応じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際利用者や家族に十分な説明を行い、話し合い、理解が得られるよう努めている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設けている。 苦情受付、苦情解決責任者、第三者委員を設けている。苦情や意見があった際には検討し改善している。	家族の思いや意見は真摯に受け止め、利用者さんの状況や職員の意見も取り入れながら対応している。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定期的な職員会や、それ以外にも必要の際には会を設け検討し、その意見をまとめ代表者に伝える機会をもつようにしている。	隣接する認知症対応型デイサービスと合同で会議をし、その後それぞれで、会議を持つ。職員はアイデアや意見を出しやすいと言う。全員で協力して取り組んでみて、評価、変更などを行い、常にケアの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は日常的に管理者の意見を聞く場を持ち、管理者及び職員個々の状況把握をし、働き易い環境、条件の整備に努めている。又、職員のスキルアップの為の研修等の参加も積極的に推進している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り研修に出る機会を持ち、活かせるよう努めている。又、伝達研修を実施したり個人のステップアップ研修（資格取得等）を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模のグループホーム連絡会を作り交流している。お互いの施設の見学や実習を行い参考にし向上出来るよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みの時点で相談にのり、入所決定時には実調に行くことにより現状把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時点で相談にのり入所決定時には実調に行き、家族の気持ちを受け止め現状把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーと連携を取り可能なサービス内容の助言、提案をしている。現状を把握し個々にあった支援が出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を中心に置き、常に寄り添い共に生活をしている。個々の希望を大切にしている。又、日々の生活から学んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常的に家族と十分にコミュニケーションを取り何でも言い合える環境作りに努力している。利用者と家族双方の気持ちを理解し良い関係が築いていけるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の来訪や自宅への外出、行きつけの美容室や墓参り、買い物等支援している。	自宅にしばしば出かけては、安心する利用者さんがいる。また、家族が忙しかったり事情があって帰れないときには、近くまで、ドライブして、気持ちを納得してもらったりする。懐かしいな、行ってみたいな、という郷愁の思いを大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の間に入りトラブルなくコミュニケーションが取れるよう和やかな雰囲気作りに努力している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	それまでの関係を大切にしている。退所後、家族からの連絡もあり相談に応じている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアカンファレンスやケアプラン立案時には出来るだけ本人に参加して頂き、意向に添った生活が出来る様にしている。又、困難な方は表情や行動から読み取る様努めている。	調査時にも家族さんが訪れて、ケアマネジャーと介護計画について、話し合っていた。認知症が進むと思いや意向の把握は困難なことも多い。職員の一方的なケアにならないよう、関係者の意見も参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人と日々の関わりの中から情報を得ている。又、入所前に担当していたケアマネージャーからの情報も得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りを通し情報を共有し把握に努めている。又、モニタリングやカンファレンスをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と必要時には家族に参加して頂き随時ケアプランを見直し、意見交換、検討している。	アセスメントは、さまざまなアセスメントツールを利用して、利用者さんの深くて正確な理解を心がけている。水分、栄養、運動などの面も鑑みながら、利用者中心の理念は、介護計画にも実践されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアの中で気付いたことや様子を記録及び報告する事によって情報を共有し、それを活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空き部屋利用のショートステイが出来るようにしている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治協会にも入りボランティアの方の協力を得たりし行事や外出を行っている。又、地域の保育園とも交流をしたり、習い事（習字）に出掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望のもと、受診または往診に来ていただけるよう支援している。	利用者さんは、希望の医師に受診できる。家族の都合がつかないときには、職員が付きそう。また、医師に生活状況を話すために、職員が家族とともに受診に付き添うこともある。体調や病気のことなどは、家族と情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師の為、常に相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に情報を提供する等連携し、又いつでも受け入れ出来る体制を取っている。事業所においてはアフターケア等について病院と情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態の変化がある時は都度家族に報告、相談し、医師を含めて話し合い、全員で方針を共有し、事業所で出来る事を見極めスタッフ一丸となって支援している。	グループ法人に医療機関があり、医療、看護体制は十分である。看取りのマニュアルも整備されており、利用者さん、家族さんなどの要望は出来る限り応じてゆくとのこと。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者が看護師の為、定期的に勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に施行している。又、地域の消防団とも連携している。	年に2回の避難訓練は、夜間想定もあり、利用者さん、消防、近隣住民参加が参加している。法人としても、防災対応は万全である。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として尊敬し一人一人を大切にしている。又、言葉掛けには意識し気をつけている。	個室のドアはノックして入る。排泄の誘導は、周りにそれと悟られないようさり気なく促している。また、良い接遇の言葉使いを、毎日練習するなど、基本的な態度を大切にして、利用者さんを尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の力に合わせ行動し、傾聴や説明を行い押しつけることなく可能な限り自分で決めて頂くようにしている。（待つ介護を心掛けている）		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースや希望に沿って一日を過ごしてもらうよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り自分で選ぶことが出来るように支援している。散髪については本人の希望に沿って移動理容室を利用したり近隣や馴染みの美容室への送迎を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、下膳、食器洗い、昼食作り等を出来る方にして頂き、役割のある生活をして頂いている。自分専用の茶碗や箸、湯呑を使用する事で家庭での雰囲気に近づけている。	利用者さんは手作りの暖かい食事を、職員と同じテーブルでするなど、おだやかな雰囲気である。利用者さんが他の方を気遣ったりしている場面もあり、職員はそれを見守っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事について栄養士の管理の元バランスを考えたメニュー作りを行っている。水分摂取の為いつでも飲める様にスポーツ飲料や番茶を用意している。夏場は、塩分補給の為塩番茶を用意したり水分補給にアイスクリームを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の状態に合わせたケアを行っている。ポリデントで義歯洗浄も行ったりしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パターンシート等活用し、一人一人の排泄のパターンを把握している。可能な限りおむつのない生活が出来る様支援している。又、プライバシーを尊重し嫌な思いをされない様努めている。	入居して一ヶ月ぐらいで、排泄パターンが把握できるという。その後は、頃合いを見計らって、トイレでの排泄を促している。認知症が進んだ方で排泄のサインが分かりにくい方がおられたが、根気よく観察して、失禁をしないで、トイレでの排泄に持っていったという。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の状態に合わせた下剤の活用や水分補給、適度な運動をして頂く様心がけている。又、おやつを工夫している(寒天ゼリーやココアなど食物繊維を含む等)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り本人の希望時に入浴して頂いている。汚染時には都度シャワー浴をして頂いている。又、季節に合わせた入浴も実施している。(柚子湯)	浴室は明るく清潔で、安全である。利用者さんは一人ずつゆっくりと入浴を楽しむことができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り一人一人のペースや希望に沿って一日を過ごしてもらうようにし、個別に休息を取って頂いている。気持ちよく休めるよう室温調節にも努めている。又、夜間不眠時には、ナイトミールを試みたり、傾聴や寄り添いを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋や説明書を保管し、薬についての理解を深め、共有している。内服に変更があった時には、体調の変化の確認に努め、必要時に応じてバイタルチェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴を踏まえ、その人の出来る事や趣味を楽しめる様、個別に支援している。(花の手入れ、食事作り、、配膳、塗り絵、裁縫、外出、習字、編み物等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブやお茶をしに出かけたり事業所周囲を散歩したり外気浴等、個々の体調に合わせて行っている。又、墓参り、行きつけの美容院、他施設に入所中の家族への面会、遠足に出かける機会を作っている。	調査時にも、二人の利用者さんが、職員さんと買い物に出かけた。好きなものを買ってもいいのに、遠慮されたので、職員が、お菓子など買うよう促したとのこと。利用者さんは嬉しそうに帰って来られた。自発的に出かけない時にも、誘導して、外気浴や外出に心がけている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族、本人の希望にて財布を持つ利用者もいる。お金の管理ができない利用者は、可能な限り希望時には預かり金から買い物が楽しめる様支援をしている。又、買い物場面では本人が支払える様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話がかけられる様支援をしている。又、家族や知人に手紙を出せる様取り組んでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には季節の花を飾り、壁には季節毎に塗り絵や習字を飾っている。又、玄関前には花等を植えて和やかな雰囲気にしている。日除けカーテンを手作りしたりトイレは気がついた時に掃除をし、心地よく使って頂ける様心掛けている。	吹き抜けで、和洋折衷のホールは、明るく広々として、くつろいだり、趣味や作業など、多目的に活用され、活き活きした生活が職員とともに営まれている。飾られている作品には、作ったときの思い出や、いただいたときの感謝など、かけがえのない思いが込められている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々にソファーを、畳間にはこたつを置き、個々や少人数でくつろげる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれが馴染みの家具や小物を自由に持ち込んでもらい、居心地の良い空間になる様に工夫している。	利用者さんは、個性的な自分の部屋を、控えめながらも、自慢げに案内してくれた。ホームの中での自分の空間で自由に過ごせるように、職員もプライバシーには十分に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有場所には冷蔵庫を置き自由に使用して頂いている。カレンダーは分かり易い所に大きくつけている。又、個々にあった活動ができる場面を見出し働きかけている。		